

入選

満開の親切

香川県 大野原小学校

四年 岡 咲穂

「おなかすいたなあ。早くおべんとうを食べる場所、見つけよう。」

ポカポカと春の日差しが気持ちいい、昼のことでした。お花見の場所を探していると、右側のタイヤがみぞに落ちている車を見かけました。車がすれちがったとき、思わず私は、

「止まって！」

と言いました。何台もの車が、その車とすれちがったのに、どの車も止まらずに行ってしまう、かわいそうに思ったからです。

お母さんが車をおりて、話を聞きに行きました。私も心配になってついて行きました。車の持ち主は、おじいさんとおばあさんでした。話を聞けば、けいたい電話を持ってなくて、どこへ連れくしたらいいのか、わからないというじょうきょうでした。

私たちだけでは、車を持ち上げることもできないから、車屋さんに来てもらうことにしました。お母さんが、けいたい電話で、車屋さんに連れくをしました。

しばらくすると、車屋さんが来ました。しかし、車屋さんは、

「道がせまくて、車を持ち上げる機械を運べません。すいません。」

と言って、帰ってしまいました。はらが立ちました。車にくわしいはずなのに、助けてくれればいいのに。

どうするか、相談していると、べつの車が通りかかりました。その人も心配して、

「どうしたんな。こまっとんやったら、うちの会社のわかいもん、よんでくるわ。」

と言って、よびに行ってくれました。待っていると、みんなが集まってきました。うちのじいじも手伝って、車を後ろからひっぱりあげていました。私は子どもなので、見ていただけだけれど、心の底からがんばれと、おうえんしていました。

みんなの力で、後ろのタイヤが持ち上がりました。でも、前のタイヤは、エンジンがあるので、重くてまだ持ち上がっていませんでした。すると、またうれしいことに、車が止まってくれました。その車は、クレーン車のような車だったので、前のタイヤを持ち上げてくれました。

見事、おじいさんとおばあさんの車は、元通りになりました。私はそのようすを見て、ほっとしました。手伝った人たちは、なにも言わずに笑顔で帰っていきました。おじいさんとおばあさんもとてもうれしそうでした。

こまっている人がいたら、どうしますか。私はこの日、たくさんの親切に出会いました。一つの小さな親切が、次の親切を生み、また次の親切を生むという、親切のつながりを感じました。その親切のつながりは、人を笑顔にするとわかりました。

そして、まわりの人もうれしい気持ちにさせると気がつきました。

「おべんとう、さい高！」

この日食べたおべんとうは、心もポカポカ、桜もきれいで、いつもよりおいしかったです。